

- | | |
|--|----|
| 1. PERSON 12世紀、中国（南宋）の儒学者で、朱子学（宋学）を大成。 | 1 |
| 2. 万物生成の根源・原理と事物に形を与える器・具の二つの組合せで万物の成り立ちや世界を説明する朱子の考え方。 | 2 |
| 3. 理（理法・精神的要素）が気（ガス状の物質的要素）を支配するという二元論的な考え方。人間なら理（本然の性）が気（気質の性）をコントロール。よって、善悪の区分は心に先立つ客観的な理法による。 | 3 |
| 4. つつしみの心で感情や欲望を抑制し、万物を貫く理法を見極めること。
語義：居敬は「立ち居振る舞いにつつしみがあること」。窮理は「理を窮（きわ）める（それ以上進めないところまで行きつく）」 | 4 |
| 5. 真の知の確立（致知）は、それぞれの事物に即して理を窮めていくこと（格物）による。書き下し：「知を致すは、物に格（いた）るにあり」 | 5 |
| 6. PERSON 15・16世紀、中国（明）の儒学者で、陽明学を大成。 | 6 |
| 7. 全ての人間に生まれながらそなわる心の本体（良心）を自覚し、主体的に発揮することで善を実現できる。「良知」は孟子の言葉で良知良能とも。 | 7 |
| 8. 心において理と気は一つ（一元論的）。よって、善悪の区分は心の本体（良知）の主観的・主体的なはたらきによる。 | 8 |
| 9. 実践的な陽明学の主張。「知は行のはじめ、行は知の完成」。
関連事項：ソクラテスの毒杯を仰いで自死した際の「悪法もまた法なり」に象徴される、知ることと行動の一致を重視した考え方 | 9 |
| 10. PERSON B.C. 5・4世紀？、中国の道家の開祖。 | 10 |
| 11. 道家の説く、万物に一貫する不変のもの。儒家の「人倫の道」（道徳や政治）に対する「自然の道」（万物の根源や無＜認識や説明ができない＞）。 | 11 |
| 12. 道（タオ）に従って生きること。作為（人工・都会）を否定し、自然（素朴さ・田舎）を重視。 | 12 |
| 13. 水（上善は水の如し）のように、無理せず受け身で生きること。 | 13 |
| 14. 老子の理想社会。欲の少ない素朴な人々が構成する小さな国家。 | 14 |
| 15. PERSON B.C. 4世紀、老子の思想を哲学的に深めた道家の思想家。 | 15 |
| 16. 荘子の説く「無為自然の世界」では、全ての存在は斉（ひと）しく同じとする思想。逆に、「人知の世界」では善悪や生死が相対的に区別される。 | 16 |
| 17. 荘子の説く「何にもとらわれず、道（タオ）に順応していきる」理想的人間像。 | 17 |
| 18. 万物斉同（説）や「胡蝶の夢」に見られる、荘子の理想の境地。 | 18 |

T. Q. 「タオイズム（老荘思想）のユニークさとは？」

T. A.

何事にもとらわれず、ありのまま（自然）に生きることが無為自然であり、人間は常に柔弱兼下でなければならない。孔子の人倫の道をも否定し、人知では到底およばない境地を見出した「道」こそが、タオイズム（老荘思想）の一番のユニークさといえるだろう。